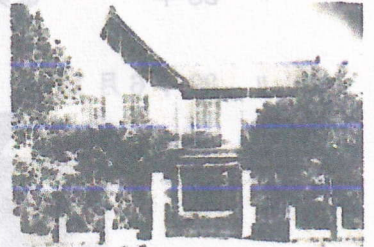


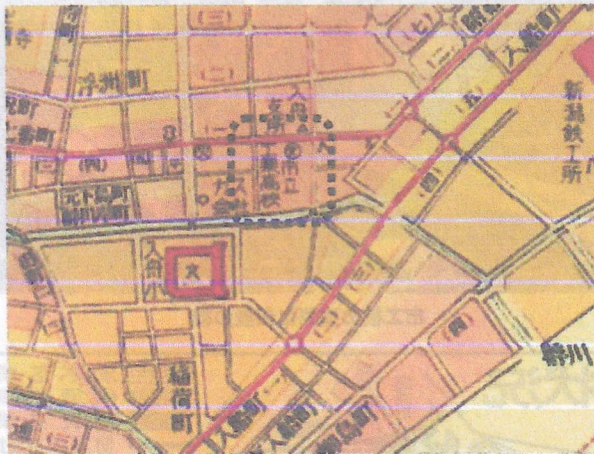
新潟市立工業高等学校の歴史

昭和 20 年 3 月 文部省の認可を得て新潟市立工業高校として開校 生徒 50 名、教職員 11 名
 (当時、新潟市鉄工組合から「本格的な技術教育をつけた人がほしい」ので、工業学校を創立してもらいたいという要望が市に出されていた。新潟市鉄工組合の解散により、その建物や機械器具を新潟市が譲り受けて開校)

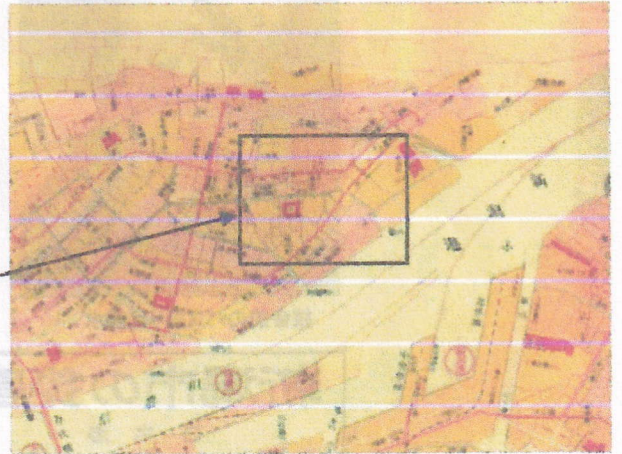
- // 23 年 4 月 新潟市立工業高等学校と改称し、定時制課程も設置
- // 24 年 国立倉庫解体の用材を用いて体育館、普通教室を作る
- // 25 年 国内唯一の造船科を新設 生徒 40 名
- // 26 年 3 月 第一期卒業生 40 名



初代の校舎



昭和 26 年市工付近の様子



昭和 26 年新潟市地図

校歌

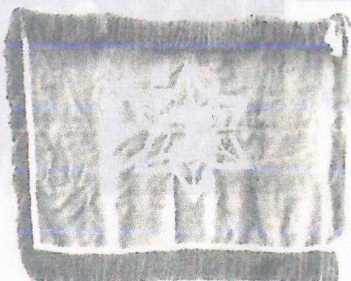
久木信夫 作詞
 岡本敏明 作曲

一、飯豊山 千比中うかたに
 朝雲の のぞみは高し
 祈らば工の業を
 まなびをむ 踏みて修めて
 人のその さいはひのため
 ああわれら 青空と慕はばや

二、信濃川 うらほす上
 秋葉の 息吹は清し
 美しき 智慧みつ珠を
 みかきむ 思ひひそめて
 くらきその よみこひのため
 ああわれら 打ちをかきさばや

三、大海の ととく潮に
 若人の あこがれ熱し
 たくましく 道と
 つらぬかむことつくして
 人のその やすらいのため
 ああわれら 夕暮に祈らばや

新潟市工校歌



新潟市工校旗



昭和 38 年に完成した校舎